

【調査報告】

子供の間接的な不満に関する比較研究

——日本人とオーストラリア人の両親の対応を比較して——

廣 内 裕 子

はじめに

子供の学校での問題は年々増加し、登校拒否、いじめの問題は深刻である。不満の発話行為に対する研究は、大人の不満を取りあげたものには多くの研究があるが、子供の不満に焦点をあてたものはほとんどないと言ってもいい。本研究では、発達段階でギャングエイジと呼ばれる小学校3年生の日本人とオーストラリア人の子供の間接的な不満という特定の発話行為に対し日本人とオーストラリア人の子供の両親がどのように対応するかを比較研究する。それぞれの言語の母国語話者間で明白となる研究結果は子供の間接的な不満の解決に対する発話行為の比較だけでなく、小学校、異文化を教える教師にとっても学校生活の中でのいじめの問題の解決策の糸口に有効な情報をもたらす可能性の高い研究になると言えるだろう。

第1章 不満に関する文献

1.1 日本語における「不満」の定義

日本語では、「不満」という言葉には、二つの意味がある。ひとつは愚痴であり、もうひとつは不満である。「愚痴」と「不満」の違いは、誰かに苦情を言ったあとで、解決策を見出すことができるかどうかにある。水谷修(1982:39)は、日本人とアメリカ人の不満の解決策の違いとして以下の例を挙げている。

日本人の教授の妻が大学の方針について同僚の妻に訴えた時、アメリカ人の教授は、問題を解決しようとした。別の場合では、日本人の妻が夫が十分な注意を払わなかったので、何人かのアメリカ人に訴えた時、アメリカ人の妻たちは、日本人の妻に離婚することを提案し、日本人の妻は、アメリカ人の妻たちの反応に驚いた。このような誤解は話し手の日本人が、英語を話すアメリカ人の文化で問題を解決しようとする誤解が生じ、日本人の価値観では理解をすることが難しくなる。

アメリカ人は、不満がある時、解決策を見出すために誰かに直接話すことを好む。一般的に英語で不満を行った時、「あなたが何もできなくても、私は話すことができるととても助かりまし

た。」と言う表現を使う。しかし、日本語には、このような表現に匹敵するものはない。

1.2 直接的な不満と間接的な不満の違い

Boxer (1989: 49) は、直接的な不満と間接的な不満を以下のように定義づけている。

- (1) 直接的な不満：聞き手に誰かに何かの責任があると言われることに対して不満を表す。
- (2) 間接的な不満：話し手自身が目の前にいない誰かまた、存在しないものに対して不満を表すこと。間接的な不満では、聞き手が状況を改善する責任を負うようなことを構築している。間接的な不満では、立場が不平等な友人関係の状況の場合は、直接的な不満として構築できる。直接的な不満が間接的な不満に変わるのは、負担や責任を取り除く会話の表現があることだ。

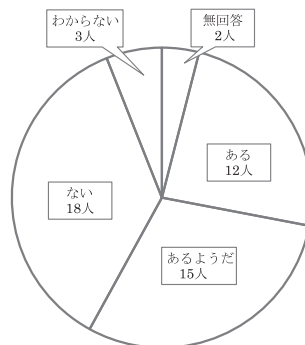
間接的な不満としてここで挙げていることは単一のレベルを見つけることとは異なるかもしれないが、間接的な不満は話し手自身が目の前にいない誰かや存在しないものに対する聞き手への不満の表明として表現される。不満を言うことは、会話の中での調和を鼓舞する発話行為とは考えられていない。Boxer は、間接的な不満の対話との関係を導く発話行為の範疇を明らかにし、第3章の調査結果に Boxer のこの発話行為の範疇を引用している。

第2章 「日本の小学生が抱える不満について」の先行研究

2.1 「子供が悩んでいる」アンケート調査の結果

1996年ジャパンマニストに子供のいるおとな50名に「子供の悩み」について (1) あなたのお子さんは悩んでいることがありますか?と、高校生が小学生の子供を対象に (2) 悩んでいることがありますか?の質問2項目のアンケート調査の結果を掲載している。

(1) 「あなたのお子さんは悩んでいることがありますか?」の質問事項の結果



(1)-1 「あなたのお子さんは悩んでいることがありますか?」という質問に「ない」と答えた人の回答例

1. まだ小さいので悩むということはないと思う。「イヤ!」とかはあっても悩むほどではな

いと思う。(5歳・男、4歳・女)

2. ささいな子どもらしい悩みはつきないようだが、自分で解決できる範囲のようだ。(8歳・女)

3. まだ幼稚園だし、悩みと言っても○○ちゃんが意地悪だとか、今日は○○があるからいやだとか、毎日ころころ変わる悩みなので、それは悩みとは言わないと思っていると、子供は「違うよ、本当に悩みだよ」と言っていた。(6歳・女)

(1)-2「あなたのお子さんは悩んでいることがありますか？」という質問に「ある」「あるようだ」と答えた人の回答例

回答には、体型のこと、友達関係、家庭環境などの悩みが多かった。

1. 友達の嫌がらせ (10歳、小4・男)

2. 不得意な授業 (8歳、小2・女)

3. 友達関係 (8歳、小2・男)

4. 算数の問題がわからない (7歳、小2・女)

5. 体が小さくのんびりしているので他人から乱暴されやすい (6歳、小1・男)

6. 友人関係 (9歳、小4・女)

7. 背が低いこと (7歳、小2・男)

8. めがねをかけていることをからかわれる (7歳、小1・女)

9. おねしょをすること、背の低いことを人に言われる (9歳、小3・女)

10. 担任の先生が強圧的なこと (11歳、小6・女)

11. 友達や親子関係、自分自身 (9歳、小3・女)

12. 容姿を同級生にからかわれる (12歳、小6・女)

13. 大好きな担任の先生に持ちあがってもらえないこと (9歳、小4・女)

14. ぜん息という持病をかかえての通学と進学への不安 (11歳、小6・男)

15. とりの席の女の子から意地悪をされて、はいてしまう (8歳、小2・男)

16. 不登校している自分のこれから (12歳、小6・女)

17. 友達が複数で遊ぶのを嫌がる (7歳、小1・女)

18. 体が小さいことを同級生にばかにされる (10歳、小4・男)

19. ほくろをからかわれる (10歳、小4・女)

20. いじめ (10歳、小4・女)

(2) 子供を対象にした「悩んでいることがありますか？」のアンケート調査結果

1. 習字の先生が恐ろしい (小2・男)

2. 背が低いこと (小5・女)

3. 服がほしい (小5・女)

4. いじめられている。どうしてかわからない。クラスの女子がなんか文句言ってくる たぶん目つきが悪いからじゃない (小5・女)

5. 勉強。算数がわからないし (小5・女)
6. 好きな男の子のことじゃない?小4.5はみんな恋愛のことで悩んでいるんだよ (小4・女)
7. 家が古い。古いし、狭い・親は昔は6畳で6人で住んでたと言うし (小6・女)
8. お母さんは自分が失敗したもいいとかいうくせに、私が失敗するとすごく怒る。それが許せない (小6・女)
9. A君がいじめる。私が足を踏んだら、強くたたいてきたり、椅子をひいたりする (小1・女)
10. A君がいじめる (小2・女)
11. A君とけんかしてしまう (小1・女)
12. A君がいじめる。いばってきたり、トイレに20分も閉じ込められた。先生とかの前だといい子になる。超むかつく。早く転校してほしい。学校は楽しいけどA君がいるからおもしろくない (小1・男)
13. 計算ができないこと (小3・男)
14. お母さんがこわい (小2・男)
15. どうして男の子って暴力ふるうんだろう (小3・女)
16. 喧嘩した時、お父さんに言おうか、言わないか。だって、お父さんだけ話して、私何にも言えないから (小3・女)
17. Aさんが遊んでくれない (小3・女)
18. 太っていること (小4・男)
19. 手のねんざ (小6・男)
20. サッカーした後、勝ったチームと負けたチームでいつも喧嘩になる (小3・男)

2.2 アンケート調査の結果から考察できること

上記の2つの主として小学生の子供を対象にした「子供の悩み」アンケート調査から考察できることは、悩みの大きな共通の要因として挙げられることは、友達関係に関する事で悩みを持っている子供が一番多く、次に体型のこと、学校での授業のこと、親子関係に関することである。家庭から離れて学校に行くと、違う環境の子供達が集まっている集団の中では、友達関係に関する悩みが起こってくるのは当然かもしれない。今回の調査では、子供が悩みを持っていたり、話してくれたりした時、両親がどのように対応するかはアンケート調査では、わからない。しかし、子供も悩みに友達にいじめられるという内容の悩みも多く、いじめられている内容の具体性として、トイレに閉じ込めるや、たたいたりするなどの暴力をふるわれたり、仲のよい友達だと思っていたら、他の友達と一緒に無視をしてくるなど、友達と思うように遊ばず、けんかをしたりいじわるをされて悩んでいることが明らかになった。また、親に相談しても親から一方的に話され、自分の気持ちがうまく伝えられない場合も多いようだ。このような学校でも家庭でも自分を受け入れてもらえない場合、高学年になると不登校、登校拒否などの子供自身が学校生活

に不安になり、つらい情況に追い込まれていく場合も少なからず生じてくるだろう。「親からかまわれすぎ」あるいは「親にかまってもらえない」の両極端の子供の行動に何らかの影を落とし、ていくことが多いようにも考察できる。

次にこの悩みのアンケート調査結果をもとに本論文のテーマである「子供の間接的な不満に関する比較研究－日本人とオーストラリア人の両親の対応を比較して」について2017年から2018年に実施した小学生3年生の子供を持つ大阪に住む日本人の両親40人、2016年から2017年に実施した小学生3年生の子供を持つシドニーに住むオーストラリア人の両親40人を対象に取ったアンケート調査を通して考察していく。

第3章 「子供の間接的な不満に関する比較研究

－日本人とオーストラリア人の両親の対応を比較して」の調査方法

3.1 アンケートの回答者とアンケート回収の手順

本研究のアンケートの対象者は80人で、小学校3年の子供を持つ40人の日本人の両親と40人のオーストラリア人の両親にアンケート（添付）を郵送または、直接手渡し配付し、回収した。強制力が働かないように率直に会話を記入してもらった。また、回答者の倫理的配慮を考慮し、アンケートの回答結果は個人が特定されるような形で公開されることがないことを明記した。日本人のアンケートは75%が回収でき、オーストラリア人のアンケートは100%回収できた。3年生の男子生徒の29人の両親（15人の日本人の両親と14人のオーストラリア人の両親）と3年生の女子生徒の41人の両親（15人の日本人の両親と26人のオーストラリア人の両親）の回答があった。（表1を参照）。

アンケートが父親として、母親としての会話を記入する形式だったので、日本人の場合、会話の文脈の内容が十分に理解できなかったことが回答数の低かった理由に挙げられる。

小学校3年生の子供を持つ両親を回答者に選んだ理由は、小学校3年生は、発達段階でギャングエイジとよばれ、家庭（親）や学校、学級（教師）といういわゆる保護された集団から自立し、気の合う仲間同士で徒党を組んで遊んだり活動したりするようになる年代である。このころの仲間は固定的で閉鎖的なので、自分たちだけに通じる合言葉を決めたりして、仲間意識を強くしていく。しだいに自我が強くなっていき、劣等感や反抗心がむき出しになることもある。ストレスがたまり、悩みを抱き、不安が募るが、自分の感情をきちんと言葉で表現することが難しいのもこの年代である。こういった小学生3年生の子供が学校生活で起こった問題の間接不満を人、日本人とオーストラリア人の両親がどのように解決するかを考察したかったからである。

表1 アンケートの回答者のうちわけ

子供	男子	女子	合計
日本人の両親	15	15	30
オーストラリア人の両親	14	26	40

日本の両親の年齢は31～35歳で、オーストラリア人の両親の年齢は29～50歳だった。日本人の両親は日本語で、オーストラリア人の両親は英語のアンケートに答えた。回答者の個人情報を最小限に抑えることを、アンケートに記入した。アンケートの回答は大阪とシドニーに住む友人から小学校3年生の子供を持つ両親に配布してもらい、アンケートの記入は50分程度で済むようにアンケートに記入してもらった。

3.2 アンケートの分析の方法

会話を完成するアンケートは、資料収集に一般的に使用される手段で、談話完了アンケートは、回答者が実際に会話をしているかのように会話で回答する状況からなる、書かれたミニロールプレイ形式のものである。これらの会話アンケートは、自由記述式のアンケートで、架空の対話者から回答されるものではなく、会話の対象が明確である。

本研究の主な質問は、以下の3点においた。

質問1：日本人の子供の父親と母親は、オーストラリア人の子供の父親と母親と子供の間接的不満に対して、異なった対応をするか？

質問2：日本人とオーストラリア人の両親は男の子と女の子の間接的不満に対して、異なった対応をするか？

質問3：日本人とオーストラリア人の両親の子供の間接的不満への対応の違いはそれぞれの異なった文化背景に起因しているか？

この研究で使用したアンケートの内容は子供の間接的な不満に対する親の対応を示している。アンケートに使用した場面は、子供と両親との相互関係がはっきりできる内容を考え、構成した。

本研究の回答は、子供の父親と母親に回答してもらい、最初のアンケートの1番目の場面はずっと一緒に遊んでいた友達が急に遊ばなくなった子供の不満。2番目の場面は、算数で一生懸命勉強してもテストで0点、10点しか取れない子供の不満。3番目の場面では、子供の持ち物が学校でなくなることへの不満。4番目の場面では、友達の家へ遊びに行っても、ゲームなどを貸してくれない子供の不満。5番目の場面では、アレルギーがある子供が友達に『アトピー星人』と言われ、学校に行きたくないという子供の不満の5場面を取りあげた。(5場面の会話の詳細は添付の英語と日本語のアンケートを参照のこと)

3.3 Boxer が分析した間接的不満の対話者との関係を導く発話行為の範疇

Boxer (1989) は間接的な不満を、コミュニティ内およびその周辺で記録された 426 場面、533 の会話を分析し、6 種類の間接不満の範疇に 1) 無視、トピックの切り替え 2) 質問 3) 否定 4) ジョーク／からかい 5) 助言／説教 6) 同情、憐れみに分類した。表 2 は間接不満の応答の内容の詳細である。

表 2 Boxer が分析した間接的不満の範疇

範疇	発話の割合	解説
話題の切り替え	10.19%	無視、聞き手が話し手に繰り返して聞き出そうとする意図的な話題
質問	11.70%	挑戦的な質問
否定	14.72%	親密であったり、立場が同じでない聞き手と距離を持つ
ジョーク、からかい	6.23%	状況の見かたを変える
助言、説教	13.58%	平凡な言葉、道徳的説教
同情、哀れみ	43.58%	同意、元気づけ、驚き、怒りなどで叫ぶこと

以上が Boxer の間接的な不満の対応に対する範疇だが、特に筆者の今回の研究では、子供の間接的な不満に対する日本人とオーストラリア人の両親に対応の結果にはいくつかの相違が見られた。次の章では、Boxer の間接的な不満に対応する範疇を引用しながら、本研究の 5 つの場面での会話形式のアンケート結果について考察していきたい。

第 4 章 会話形式のアンケートの子供の間接的な不満に対する対応の結果

4.1 間接的な不満に対する話し手と聞き手の性別の要素

表 3 の資料は、5 つの場面の間接的な不満に対する性別による対応の分析を表にしたものである。

表 3.1 場面 1 の子供の間接的な不満に対する両親の対応の範疇

範疇	ABF	ABM	AGF	AGM	JBF	JBM	JGF	JGM
話題の切り替え					8%	13%		7%
質問	38%	24%	26%	33%	42%	25%	25%	33%
否定		6%	9%	13%		6%	25%	
ジョーク、からかい								60%
助言、説教	62%	58%	65%	54%	50%	56%	50%	
同情、憐れみ		12%						
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 3.2 場面 2 の子供の間接的な不満に対する両親の対応の範疇

範疇	ABF	ABM	AGF	AGM	JBF	JBM	JGF	JGM
話題の切り替え	44%			7%			8%	
質問	34%	39%	17%	57%	31%	24%	17%	33%
否定	11%	22%	17%	29%	23%	12%	25%	7%
ジョーク、からかい								7%
助言、説教	11%	39%	66%	7%	46%	64%	50%	46%
同情、憐れみ								7%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 3.3 場面 3 の子供の間接的な不満に対する両親の対応の範疇

範疇	ABF	ABM	AGF	AGM	JBF	JBM	JGF	JGM
話題の切り替え						13%		7%
質問	50%	13%	18%	40%	50%	27%	42%	50%
否定			18%	20%	8%	7%		7%
ジョーク、からかい	16%	6%	9%					
助言、説教	34%	69%	46%	33%	42%	53%	58%	36%
同情、憐れみ		12%	9%	7%				
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 3.4 場面 4 の子供の間接不満に対する両親の対応の範疇

範疇	ABF	ABM	AGF	AGM	JBF	JBM	JGF	JGM
話題の切り替え		7%					8%	
質問			9%	12%				21%
否定		7%						
ジョーク、からかい								
助言、説教	100%	86%	91%	76%	100%	100%	84%	71%
同情、憐れみ				12%			8%	8%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

表 3.5 場面 5 の子供の間接的な不満に関する両親の対応の範疇

範疇	ABF	ABM	AGF	AGM	JBF	JBM	JGF	JGM
話題の切り替え						8%	8%	
質問			10%	6%		15%		7%
否定		7%	10%	13%		15%	17%	13%
ジョーク、からかい			10%					
助言、説教	100%	93%	70%	81%	100%	62%	75%	80%
同情、憐れみ								
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

ABF: Australian Boy's Father はオーストラリア人の男の子の子供に対する父親の対応
ABM: Australian Boy's Mother はオーストラリア人の男の子の子供に対する母親の対応
AGF: Australian Girl's Father はオーストラリア人の女の子の子供に対する父親の対応
AGM: Australian Girl's Mother はオーストラリア人の女の子の子供に対する母親の対応
JBF: Japanese Boy's Father は日本人の男の子の子供に対する父親の対応
JBM: Japanese Boy's Mother は日本人の男の子の子供に対する母親の対応
JGF: Japanese Girl's Father は日本人の女の子の子供に対する父親の対応
JGM: Japanese Girl's Mother は日本人の女の子の子供に対する母親の対応

4.2 5つの場面における子供の間接的な不満に対する両親の対応と子供の性差の違いから見た結果の分析

筆者の調査結果では、オーストラリア人の両親と日本人の両親の対応の類似点として考察できた結果は、子供の間接的な不満に対して助言や説教の項目が高いことだった。

Boxer (1989: 125) は、女性は、社会的に同情や憐れみの対応の割合が高いと述べているが、本研究では、その結果は顕著には見られなかった。その一因として、話し手が子供という聞き手の両親より、立場が低いことや年齢的に若いことがあるので、助言や説教の項目が高くなったことが推測される。以下に具体的に使われた助言や説教の日本人とオーストラリア人の両親の会話表現の例を挙げ、研究の質問1、質問2の観点から分析してみる。

【1】日本人とオーストラリア人の両親が使った場面で助言や説教の対応が高かった会話表現の違い

(1)-1 場面3で使った日本人とオーストラリア人の両親の助言や説教の会話表現

場面3では、男の子の子供に対して、日本人の母親もオーストラリア人の母親もどちらも、日本人とオーストラリア人の父親よりも助言や説教の表現がより強い表現を使う傾向が強かった。

(1)-1-1; オーストラリア人の母親から男の子への表現の例

- ① You have to find your things and look after them better.
- ② You really must start taking care of your possessions. I can't keep buying new ones.
- ③ This time you will have to buy it with your own.

(1)-1-2; 日本人の母親から男の子への表現の例

- ① いつなくなったと気付いたの? 学校でなくなったんだったら友達に尋ねるか先生に相談するといいわ。
- ② どこに置いたか知っているの?
- ③ なぜなくなったのかしら? 先生に相談しましょう。

次に、日本人とオーストラリア人の父親の女の子への対応の会話表現について考えてみる。

(1)-2-1; オーストラリア人の父親から女の子への表現の例

- ① You must be more careful.
- ② You had better find it and quick.
- ③ We'll have to work harder at keeping track of your English book.
- ④ We'll have to make sure that your name is on everything.

(1)-2-2：日本人の父親から女の子への表現の例

- ①自分のものを確認しなさい。
- ②自分の持ち物に注意しなさい。
- ③まず原因を考えなさい。
- ④いつも整理整頓しているのかい？
- ⑤いつも元通りに物を戻しているのかい？
- ⑥先生に相談しよう。

(1)-3：日本人とオーストラリア人の両親の会話の分析

オーストラリア人の母親は、日本人の母親よりも男の子への助言の表現に、直接的な強い表現が多いように思われる。このような表現が高い理由には、オーストラリア人の母親が‘must’や‘have to’の表現を使っていることにある。英語で‘must’や‘have to’は、義務や秩序を守ることを伝える動詞だ。日本人の母親の反応の表現を分析すると、日本人の母親は、男の子に対しては顔をつぶさないような助言をする傾向が強いようである。子供を非難するよりもむしろ教師と相談することを提案する表現があるが、対照的に、オーストラリア人の母親は、子供に責任を持たせて不満を解決することを好むようだ。

オーストラリア人の父親は、女の子の対応に対して、オーストラリア人の母親の男の子の対応と同じように、‘must’や‘have to’などの義務を表す動詞を使っているが、‘had better’という助言をする動詞を使ったり、主語を‘You’と子供だけにせず、‘We’と父親と子供が一緒に行動を起こす表現を使っていることは母親が子供にだけ責任を持たせ解決する対応とは違うことを考察できる。一方、日本人の父親は、対照的に、子供へ問いかけをする疑問文の表現を使っている。また、日本人の母親が男の子への対応と同じように、日本人の父親が女の子に「先生に相談しよう」という働きかけの提案をする表現を使っている。その理由として考察できるのは、日本人の父親も女の子の顔をつぶさないように考えている点が高いと推測される。日本人とオーストラリア人の母親の男の子の対応と日本人とオーストラリア人の父親の女の子の対応から考察できることは、オーストラリア人の場合は、子供が問題を解決するように助言する傾向が強いが、日本人の両親の場合、子供の顔をつぶさないように、親と子供と一緒に問題を解決しようと助言する傾向が高いことがわかった。

次に場面5の日本人とオーストラリア人の両親の不満の対応の会話表現について考察したいと思う。

(2)-1 場面5で使った日本人とオーストラリア人の両親と日本人の両親の助言の会話表現

場面3の男の子への対応とは異なり、場面5での男の子へ助言の表現は、日本人とオーストラリア人の母親の時よりも、日本人の父親もオーストラリアの父親もどちらも男の子に対して強い助言の表現を使っている。

(2)-1-1：オーストラリア人の父親から男の子への表現の例

- ①Don't take any notice.

- ②Don't worry about such a thing.
- ③Tell your teacher that you are sad, like you do at home.
- ④Consult your teacher.
- ⑤You don't have to go to school, so you won't have to hear insulting things.

(2)-1-2：日本人の父親から男の子への表現の例

- ①無視しなさい。
- ②無視するだけで、あなたを動揺させなくするよ。
- ③子どもはとても残酷だ。動揺するのはわかるが、無視しなさい。
- ④一部の子供たちは陰険だけど、無視続けなさい。
- ⑤先生にどうして言わないんだい？

次に、オーストラリア人の父親の女の子への対応の会話表現について考えてみる。

(2)-2-1：オーストラリア人の父親から女の子への表現の例

- ①Don' worry. If you don't pay attention, they're going to stop teasing you.
- ②Please don't worry about it.
- ③Your allergy is going to be over pretty soon. Don't worry.
- ④Well, we could tell them the story about the ugly ducking and they might not be so mean.
- ⑤Who said such a thing?

(2)-2-2：日本人の父親から女の子への表現の例。

- ①彼の言うことを無視しなさい。
- ②彼／彼女の言うことを気にするな。
- ③無視しなさい。
- ④いじめられたら言い返してやるぐらい十分強くなりなさい。
- ⑤誰がそんなこと言ったんだ。父さんがその子に電話をかけるよ。

(2)-3：日本人とオーストラリア人の両親の会話の分析

場面5の男の子と女の子へ関する結果を考察すると、大きな違いとして以下の点が明らかになった。

オーストラリア人の父親は男の子にも女の子にも‘Don't worry about it.’のような‘worry’（心配する）の動詞を使ったり、‘Consult your teacher.’や‘Tell the teacher.’など子供が直接教師に相談し、問題を解決する助言をすることが一般的だった。しかしながら、日本人の父親については、「無視」のような強い表現を使用する割合が女の子の時よりも男の子の場合は非常に高く、問題のある子供と原因について話し合う前に「無視」という非言語のコミュニケーションで、男の子が問題を解決するよう勧めている。同時に、日本人の女の子の対応に関しても、「無視する」ことを勧めている。

【2】 その他の会話表現

場面2では、オーストラリア人の父親が男の子に対して、‘How can I help you? Shall we do some

together? Let's spend 10 minutes, going through some math together. や、日本人の母親が女の子に対して、「一緒に勉強しようか?」と子供に質問する表現を使ったりすることがあった。また、日本人の母親が女の子に対して、「学校で何を勉強しているの。今日はテレビが見られないから。」と否定的な対応をする表現もあった。

ジョークやからかいの表現を使って子供の間接的な不満に対応する頻度はどの場面においても低かった。社会的立場が低い人と高い人との関係や、性差の違いがある場合には、ジョークやからかいの表現を使って対応することが多いが、親子関係においてはこの表現を使われることはほとんどなかった。

4.3 異なった文化背景に起因した両親の子供の間接不満への対応

異なった文化背景として (1) 子供に対するコミュニケーションの対応の違い、2) 子供に問題解決の責任を持たせることの違い、2) 家庭教育の違いの3点が挙げられると考察できるだろう。

(1) 子供に対するコミュニケーションの対応：

オーストラリア人の両親の場合、子供の不満に対して、子供の性差に拘わらず子供の間接的不満に対して、言葉を使って話し合おうという傾向が強い。これは英語のコミュニケーションは基本的に言葉を使ったコミュニケーションが主体になっているので、場面5の日本人のように対応の非言語（無視、沈黙など）を使ったコミュニケーションで対応しようとする割合が低くなっているからだ。特に、オーストラリア人の父親の場合、日本人の父親とは異なり、効果的な言葉を使い、子供の立場に立ったコミュニケーションの助言が高いように思われる。

(2) 子供に問題解決の責任を持たせること：

オーストラリア人の両親の場合、場面3、5どちらにおいても子供の間接的不満の問題が、親との会話で子供自身の問題がどこにあるかを子供みずからが見つけるように助言する傾向が強く、日本人の親が問題解決のために学校の先生に会ったり、子供が不満に思っている子供や、子供の両親に会いに行き問題の対応をすることは少ない。これは、日本人の場合、小さい時からトラブルの解決を子供自らが自分の言葉で解決し、自分の責任で解決することを家庭教育でも学校教育でも学んでいないからであろう。

(3) 家庭教育の違い：

オーストラリア人の両親の場合、子供との会話で、子供の話を聞くように促す傾向が強いように思われる。その結果、子供が学校生活で不満に思っていることをまず家庭で解決しようとする傾向が強いように思われる。しかし、日本人の両親の場合、子供が不満に思っていることを家庭で子供からきちんと聞こうとすることより、学校の先生や、友達に問題があるかのような対応をすることが多いようだ。

第5章 結論と今後の課題

本研究の調査結果では助言、説教の項目の対応の会話の表現が顕著に表れたことに着目し、調査結果を考察した。

場面3での「子供の持ち物が学校でなくなること」の不満に対する対応は、オーストラリア人の父親も母親も子供が男の子であるか、女の子であるかの性別に関係なく‘must’や‘have to’の動詞を使って子供に責任を持たせ、問題を解決することが見られた。

しかしながら、日本人の父親も母親も性別を問わず、オーストラリア人の両親のように子供に強い助言をする頻度が低かった。その根底にあるのは、優しい動詞を使った日本人の対応は、聞き手が話し手に顔をつぶすような表現を使いたくないからであろう。また、日本人の両親は、子供の間接的な不満を正当化するほど深刻に考えていないからだ。

場面5では、アレルギーがある子供が友達に『アトピー星人』と言われ、学校に行きたくないと言う子供の不満を取りあげた。

小学校3年生の子供の不満・悩みは、ギャングエイジの特性に依拠しているだけではない。学習面では、得意な科目と不得意な科目がはっきりしてくる時期である。学習に対する悩みばかりでなく、友達と深くかかわるようになれば、約束を破ったとか、物の貸し借りなどでトラブルも多くなる。おこづかいが足りないとか、ほしいものを買ってもらえないなど、不満が噴出し、「学校へ行きたくない」などと訴えることも珍しくない。

このような時に、親が子供の不満に関心を示すことが大切である。子供の間接的な不満に対して、子供に「どうしたの」「何かあったの」「話してみて」「なるほど」と子供に関心を持っているというメッセージを伝えることが、子供の味方になる接し方として大切なことだと思う。子供が不満を訴えたり、不可解な行為をしたりする時には、「子供のことがわからない」とあきらめずに、「どうして何も話さないのだろう」「文句ばかり言うのはどうしてだろう」などと冷静に対応すべきだと思う。

場面5では、日本人の両親は子供の間接的な不満に対して、嫌なことを言う友達を「無視する」ように助言するが、その前に、両親が子供の不満や悩みを上手に聞くということが必要だと思う。子供自身、両親が自分を理解し、自分の不満や悩みを受け止めてくれていることを知ることが学校生活の中で起こるさまざまな子供のトラブルを乗り越えていく過程を援助することになるだろう。

子供の話を上手に聞く聞き方として、松本大学の岸田幸弘氏(1999:76-77)は、①「うなずきながら、目と目を合わせて聞く」：聞き手の親が自分の話にうなずいていると、「ああちゃんと聞いているな」と思う。②「子供の言葉を繰り返す」：子供が「先生嫌い」と言ったら、「どうして?」と聞き返すよりも「先生のこと嫌いになったんだ」と繰り返して言うといい。③「感情表現を繰り返す」：自分の気持ちを上手に言葉にできないのがこの年代の子供である。感情表現を

繰り返すと同時に、言葉にして明確にするという。④「子供の言葉を待つ」：子供に問いただすより、子供が言葉を探したり、考えをまとめたりするのを待つ。という以上の4つの子供の話を上手に聞く聞き方を提案している。

本研究では、場面3と場面5の子供の間接的不満に対してオーストラリア人の両親と日本人の両親の対応について分析した。今後の課題として、他の場面においてもどのように子供の間接的不満に対して両親が対応しているか、会話表現を考察していきたいと思っている。

参考文献

- Boxer, D (1989) "Indirect complaints as sequential interaction: Increasing opportunities for negotiated interaction" Paper presented at the conference of the American Association of Applied Linguistics
- Decapus, A. and M. El-Dib (1985) "The Speech Act of Complaints in American English." Paper presented at the annual NYS TESOL Conference.
- 岸田幸弘 (1999) 「子供も不満・悩みに耳を傾ける」児童心理6月号『特集小学3・4年生の家庭教育』
- 澤畑結 (1996) 「こどもの悩んでいること」ちいさい・おおきい・よわい・つよい No.10. ジャパンマシニスト
- 下島かほる、辰巳裕介 (2016) 「不登校 Q&A」くろしお出版
- 水谷修 (1982) 「英語の生態」ジャパントイムズ
- 小4 KIDS 白書 (1998) 進研ゼミ

[ひろうち ひろこ 異文化コミュニケーション・比較教育学]

アンケート（日本語）

このアンケートは、子供の不満に父親、母親がどう対応するかを調べるものです。以下の場面でどのように言うかを父親、母親の立場で会話を書き入れていただきたいと存じます。

場面 1 ずっと一緒に遊んでいた友達が急に遊ばなくなったことに不満を持つ子供

親：このごろ、XX ちゃんちっとも家に来なくなったね。（わね。）

子：だって、僕／私のことを無視してちっとも遊んでくれないんだ。（もの。）
どうしたらいい？

父親：

母親：

場面 2 このごろ算数がわからなくて、0 点が、10 点しか取れないことに不満を持つ子供

親：何だい！ また、算数のテスト 0 点かい。（何よ！ また、算数のテスト 0 点。）

子：だって、先生が何を言っているかわからないから。

父親：

母親：

場面 3 このごろ、ひっきりなしに自分の持ち物がなくなることに不満を持つ子供

子：また国語のノートがなくなった。買ってこない？

親：この間、買ったばかりじゃないか。（この間、買ったばかりじゃないの。）

子：だって、このごろ僕（私）のものがなくなるんだ。（なくなるの。）

父親：

母親：

場面4 友達の家へ遊びに行っても、ゲームなどを貸してくれないと不満をいう子供

子：もう XX なんかと遊ばない。

親：どうしたの。また、けんか。

子：だって、XX だけがゲームをして僕に貸してくれないもん。(もの。)

父親：

母親：

場面5 アレルギーがある子供が友達に『アトピー星人』と言われ、「もう学校なんか行きたくない」と不満を言う子供

子：もう学校なんか行きたくない。

親：何かあったんかい。(何かあったの。)

子：僕(私)のこと、『アトピー星人』って言っていじめるんだ。(いじめるの。)

父親：

母親：

Questionnaires regarding Verbal Communication between Parent and Child

This is our questionnaire survey regarding verbal communication between parent and child. Our survey is focused on children of the 3rd grade of primary school. Would you be kind enough to fill out the empty columns below with possible remarks you give your child under the following circumstances?

Personal information of the questionnaires will not be disclosed.

The age and grade at school : Grade _____ Age _____

Sex : boy girl

Father's age : _____

Mother's age : _____

Any other child? : YES - How many? () NO

Father's occupation :

Mother's occupation :

How long have you been living in N.S.W?

Questionnaires (English)

This Questionnaires are compare to research how child's father or mother responds to what their child complain about. Please fill out empty columns with your possible conversational answers.

Scene 1 Your child is unhappy because his(her) close friend suddenly stopped visiting your house.

Parents : XX doesn't come to our house these days. What's happened to him(her)?

Child : He(She) doesn't want to play with me anymore. I don't know why. What shall I do?

Father :

Mother :

Scene 2 Your son(daughter) is unhappy because he(she) can't make good marks in arithmetic. In the test, he (she) made bad marks(0 or 10 scores).

Parents : Oh, you made 0 score again in your arithmetic test!

Child : Yeah, but I can't understand what my teacher says.

Father

Mother :

Scene 3 Your son(daughter) is unhappy because his(her) things are often missing.

Child : My notebook is gone. Could you buy me one?

Parents : I bought you one just recently, didn't you?

Child : My things are gone these days recently at school.

Father :

Mother :

Scene 4 Your son(daughter) is complaining that his(her) friend doesn't let him(her) use the games(such the friend's things)

Child : I don't want to play with Friend's name anymore.

You : What's wrong with him(her)? You quarreled?

Father :

Mother :

Scene 5 Suppose your child was allergic to something and has spots on his(her) skin. His(her) school friends teased him(her) saying 'skin problems'. Your child Complains, saying "I don't want to go to school anymore."

Child : I don't want to school anymore.

Parents : What happened? (Is anything wrong?)

Child : They tease me. They say I am an Atopic-Alien.

Father :

Mother :